

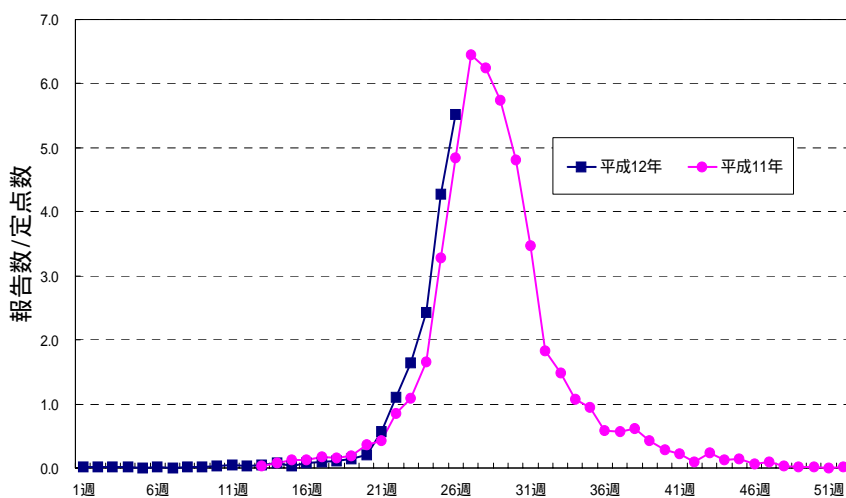
# 愛知県感染症情報

## 平成 12 年第 26 週（6 月第 4 週）

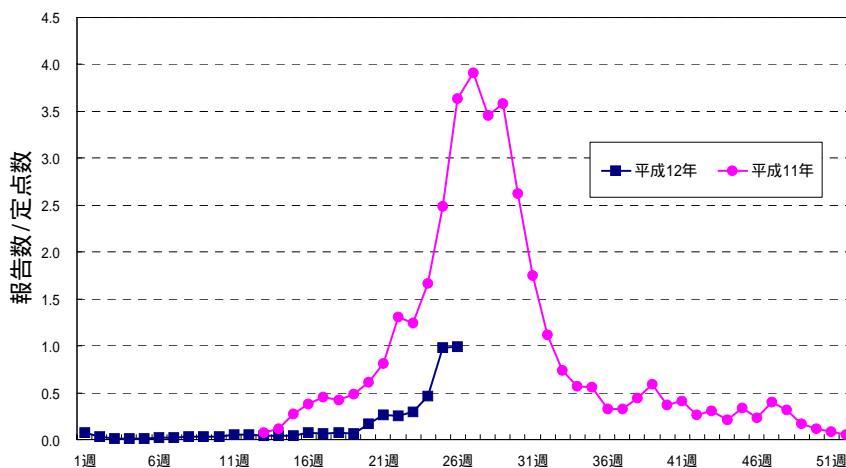
（コメント）

ヘルパンギーナ及び手足口病は引き続き流行していますので注意してください。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、流行中ですが報告数は減少しています。



ヘルパンギーナ(名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日～)から)



手足口病(名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日～)から)

（先生方からのコメント）

- 尾張西部地区
  - ・ 流行性耳下腺炎の2名の内、1名 ワクチン接種歴あり（一宮市 後藤小児科）
  - ・ 成人女性水痘はワクチン接種歴あり、軽症。

- ヘルパンギーナ、溶連菌感染症が目立ちます。  
(一宮市 あさのこどもクリニック)
- ・ ヘルパンギーナは相変わらず増加しています。  
感染性胃腸炎患者の中で、便中アデノウイルス抗原陽性者2名(7歳男、7歳女)  
溶連菌感染者 16歳女  
(尾西市 城後小児科)
- ・ ヘルパンギーナ目立ちます。  
溶連菌感染症、ムンプス(流行性耳下腺炎)多し  
(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)
- ・ A群溶連菌感染症、ヘルパンギーナが流行しています  
(江南市 みやぐちこどもクリニック)
- ・ 伝染性膿痂症 1名  
(師勝町 師勝クリニック)
- 尾張東部地区
  - ・ 麻疹2例(7ヶ月男女)。  
キャンピロバクター腸炎3例(2歳女、4歳女、9歳男)。  
EPEC(病原性大腸菌) O-1 3歳男  
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
  - ・ ヘルパンギーナ流行中。  
水痘、突発性発疹症流行継続(水痘はワクチン接種歴有り、3歳女)。  
流行性耳下腺炎散発。  
(尾張旭市 佐伯小児科医院)
  - ・ 麻疹、姉弟例あり。11歳姉、4歳弟いずれもワクチン歴なし。  
あいかかわらずヘルパンギーナ多いです。  
(春日井市 朝宮こどもクリニック)
  - ・ ヘルパンギーナが急に増えてきています。  
(春日井市 片山こどもクリニック)
  - ・ 今週もヘルパンギーナの流行が続いています。  
(春日井市 かちがわ北病院)
  - ・ ヘルパンギーナ散見す。  
(小牧市 小牧市民病院)
  - ・ アデノウイルス(+)の下痢症が目立つ。  
(東海市 東海市民病院)
  - ・ サルモネラ O-7 腸炎 2歳男  
(東海市 小児科ハヤカワ医院)

● 西三河地区

- ・ マイコプラズマ 3歳女  
病原性大腸菌 O-18+ カンピロバクター 2歳男  
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ 川崎病 2歳女  
(岡崎市 竜美ヶ丘小児科スズキ医院)
- ・ カンピロバクター 9歳男  
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ 麻疹 ワクチン(-) 4歳男  
(岡崎市 医療法人川島小児科水野医院)
- ・ 病原性大腸菌 O-1 VT1・VT2(-) 5ヶ月  
ムンプス髄膜炎 4歳  
(幸田町 とみた小児科)
- ・ ヘルパンギーナ、伝染性紅斑が増えてきました。  
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ ヘルパンギーナ多いです。  
(知立市 宮谷クリニック)
- ・ 溶連菌感染症が増加  
(西尾市 やすい小児科)

● 東三河地区

- ・ ヘルペス歯肉口内炎 1歳男  
(豊橋市 野村小児科)
- ・ 伝染性紅斑 母親罹患の例、2例あり。  
水痘 少し増加。  
溶連菌感染が目立つ。  
(田原町 かわせ小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者 4名

- ・ 一宮保健所から報告の 56歳女 6/19 発病、6/20 初診、6/26 診定。  
菌型は、O-157 VT2(+).
- ・ 瀬戸保健所から報告の 51歳女 6/20 発病、6/21 初診、6/28 診定。  
菌型は、O-157 VT2(+).
- ・ 知多保健所から報告の 6歳男 6/27 発病、6/26 初診、6/28 診定。菌  
型は、O-157 VT2(+).
- ・ 豊川保健所から報告の 51歳男 6/25 発病、6/26 初診、6/30 診定。  
菌型は、O-157 VT1・VT2(+).

( 全数把握の 4 類感染症の発生状況 )

クロイツフェルト・ヤコブ病患者 1 名。

後天性免疫不全症候群患者 ( AIDS 患者 ) 1 名。

第 24 週 ( 6 月 12 日 ~ 6 月 18 日 ) の 4 類感染症の全国状況

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数が例年の同時期よりかなり多く、過去 10 年間で最大の流行曲線を描いている。患者の年齢階級別で見ると、3 歳から 7 歳の小児が全体の 71% を占め、ピークは 4 ~ 6 歳にある。咽頭結膜熱、水痘は例年の同時期に比べ定点当たり報告数がやや多くなっている。水痘は大分県で定点当たり報告数 5.3 、山口県、熊本県で 4.9 、新潟県で 4.8 と多くなっている。手足口病は熊本県、佐賀県、福岡県、鹿児島県など九州地方と、群馬県、奈良県などで定点当たり報告数が多くなっている。ヘルパンギーナも 7 月下旬のピークシーズンに向け患者報告数が増加している。麻疹は大阪府で患者報告数が多い。

( Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報